笑顔あふれる街づくりを実現します!

みのり通信

2025年 春号 【令和7年】

■畠山みのり道政事務所　〒005-0006 札幌市南区澄川4条1丁目1-43
TEL：011-813-7733　FAX：011-813-7778
■北海道議会民主・道民連合議員会　〒060-0002 札幌市中央区北2条西6丁目
URL http://minori-hatakeyama.jp
Mail minori@minori-hatakeyama.jp

三期目の折り返し

畠山みのりの議員活動ならびに後援会活動に、ご支援を頂いておりますことに心より感謝申し上げます。

議員活動3期目の折り返し10年が経ち、後援会も昨年12月21日に総会を開催。さらなる結束強化と連合後援会役員の確認を頂きました。

今年は後援会会員の拡大とポスター掲示版を設置いただける協力者の拡大に力を入れてまいりたいと考えています。

立憲民主党南区として、昨年から畠山道議、あおい市議、道下衆議院議員を中心にゲストの参加も含め「立憲南区タウンミーティング」を3回開催しました。今後も定期開催に向け計画をしているとのことなので、後援会の皆さんにもご参加いただき、盛り上げてくださると嬉しく存じます。

夏には参議院議員選挙を控えておりますので、現職の「勝部けんじ」議員の勝利に向け、畠山議員を中心に後援会の皆さまにもご協力賜りますようお願い申し上げます。

今後も後援会の皆さまとともに畠山議員の活動を支えてまいりたいと思います。

畠山みのり北海道議会議員
連合後援会会長　**阿部　孝司**

第1回定例道議会報告

（令和7年2月19日～3月18日）

第1回定例道議会は、2024年度一般会計補正予算、2025年度一般会計予算、「インターネット、SNSを利用した犯罪被害の防止対策並びに誹謗中傷等の抑止及び被害者救済を求める意見書」など可決しました。代表質問には会派会長の梶谷大志議員（札幌市清田区）が立ち、知事の政治姿勢、行財政運営、防災・減災、医療・福祉課題、経済と雇用対策、エネルギー対策、観光政策、地方交通・物流政策、第1次産業の振興、人権施策、北方領土返還要求運動等、教育課題について質しました。

経済と雇用対策については、「実質賃金の引上げ」、「物価高騰対策」、「企業立地促進費補助金の見直し等」、「ラピダスなど半導体関連産業に係る課題」について知事の認識等を質しました。

エネルギー政策については、「高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定」と「泊原発再稼働」について質問しました。「泊原発再稼働」では、再生可能エネルギー電力を他地域へ送電する一方で、立地自治体がリスクを負う泊原発再稼働は不条理であることを指摘し、知事の考え方等を質しました。

人権施策については、「誹謗中傷やヘイトスピーチ等への対策」と「アイヌ政策の推進」の二点を質しました。

採択された決議・意見書

- ■インターネット、ＳＮＳを利用した犯罪被害の防止対策並びに誹謗中傷等の抑止及び被害者救済を求める意見書
- ■北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の整備促進に関する意見書
- ■将来にわたり安全安心な医療・介護制度の提供を求める意見書
- ■セーフティーネットである高額療養費制度の堅持を求める意見書
- ■持続可能な学校の実現に必要な教育指導体制の充実を求める意見書

第一回定例会予算特別委員会で質問をしました

畠山みのりは、農政部に対して「農福連携」「スマート農業」について、それぞれ質問をしました。

農福連携とは、しょうがいのある方等が農業分野で働くことを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を目指し、農業者にとっても働きやすい環境づくり、新たな働き手の確保、生産の効率化や経営の発展にもつながる取り組みです。

昨年訪れた鹿追町にはバイオガスプラントで生じる熱を利用した水耕栽培ハウスがあり、就労継続支援Ｂ型事業所の方々が働いていました。ハウス内の温度は一定に保たれ、収穫したミニトマトや空心菜、ハーブなどは学校給食にも提供しているそうです。しょうがい者がしっかり農業に携わっている証である「ノウフクＪＡＳ」※認証を道内で初めて取得しており、道の駅などでは「ノウフクＪＡＳ」と鹿追町のブランド「shika vege」のシールが貼られた野菜は特に人気が高いそうです。

こうした農福連携の動きは増加傾向にあり、道は相談窓口の設置や働きやすい環境を整えるため農業側と福祉側の架け橋となる技術支援者を育成・派遣するなど、双方がメリットを享受できるように一層の普及と定着を図るとしています。

新たに農業に携わるには知識や経験が不可欠ですが、ＩＣＴ（情報通信技術）等を活用したスマート農業で、ある程度補うことができます。農業に関する情報をデータ化し、人工知能やドローン、ロボットなどで効率的に作業することが可能です。

スマート農業というと広大な農地を無人で働くトラクターや畑を飛び交うドローンなどを想像すると思いますが、地域や経営形態に応じた技術が展開されています。そのため道は、新しい技術の情報発信や農業改良普及センターにて農業者の課題対応、営農形態に応じたスマート農業技術の導入支援に取り組んでいます。北海道はＧＮＳＳガイダンスシステム（トラクターのＧＰＳのようなもの）の出荷台数が全国の約６割を占め、搾乳ロボットは５０３戸の酪農家、１１７５台が稼働していますが、機械が高額なことや指導的な役割を担う人材不足などの課題もあります。また、北海道には携帯電話のつながらない農地が今でも４万ヘクタール以上あり、ＩＣＴ導入に踏み切れない背景があるため、安定した通信環境整備は必須です。道は昨年　10月に施行された「スマート農業技術活用促進法」による支援措置を活用し、必要としている人たち皆がスマート農業技術を活用できる環境整備に努めるとしています。

※【ノウフクＪＡＳとは】
しょうがい者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物の農林規格です。
「ノウフクＪＡＳ」は２０１９年３月に制定され、その正式名称は、「しょうがい者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物の日本規格」といいます。

ノウフク JAS 日本基金

畠山みのりの活動報告

2025年3月22日

ゲストに川田龍平参議院議員を迎えて、3回目のタウンミーティングを開催

2025年4月9日

産炭地域振興・GX推進・エネルギー調査特別委員会にて、ペロブスカイト太陽電池について質問